



Title	沖縄島大度海岸サンゴ礁池におけるハタンボ科仔稚魚の出現時期，体長，日齢
Author(s)	石原, 大樹; 立原, 一憲
Citation	琉球大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成20年度成果発表会
Issue Date	2009-03-14
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9844
Rights	

沖縄島大度海岸サンゴ礁池におけるハタンポ科仔稚魚の
出現時期, 体長, 日齢
(Occurring, body size and age of Pempherid larvae in Oh-do lagoon,
Okinawa-jima Island)

石原大樹¹・立原一憲²
(Taiki Ishihara and Katsunori Tachihara)

¹琉球大学大学院理工学研究科, ²琉球大学理学部

ハタンポ科魚類 (Pempheridae) は夜行性で, 昼間はリーフエッジの岩の裂け目や洞窟内に群れで生息し, 夜間に摂餌などを行う。これまでの研究で, 沖縄島のサンゴ礁池には多くのハタンポ科仔稚魚が出現することが明らかとなった。そこで今回は, 沖縄島のサンゴ礁池内におけるハタンポ科魚類仔稚魚の出現時期, 出現体長および日齢を調査し, サンゴ礁池がこれら魚類に果たす役割を考察した。

採集は沖縄島南部の大度海岸のサンゴ礁池と水路で行った。礁池内では, 2003年5月~2004年5月, 2004年7月~2005年7月に毎月1回, 小型曳き網を用いて仔稚魚を採集した。水路での採集は, 2001年12月~2002年11月, 2004年7月~2005年7月に毎月1~2回, 夜間の満潮時から干潮時にかけて, 方形稚魚ネットを仕掛けて行った。また, 2004年7月~2005年7月に水路と礁池内で採集された仔稚魚の耳石を取り出して輪紋数を計数し, 輪紋数から日齢を推定した。

採集期間中に計 1,264 個体が採集され, これらの個体は木下 (1988) に従い, ミナミハタンポ *Pempheris schwenkii* と同定したが, 現在ハタンポ科魚類の分類は混乱しており, 複数種混ざっている可能性も考えられた。いずれの年においても, 出現のピークは3~5月であった。水路では, 体長 3~8 mm, 日齢 8~16 の個体と体長 16~17 mm, 日齢 40~46 の個体が採集され, 前者の多くは仔魚期, 後者は稚魚期以降であった。一方, 礁池内では体長 4~19.5 mm, 日齢 11~55 の仔魚期~稚魚期の個体が採集された。

これらの結果から, ハタンポ科仔稚魚は, 孵化後 1~2 週間の浮遊期の後, サンゴ礁池へ侵入し, 仔魚期から稚魚期の成育場としてサンゴ礁池を利用していることが明らかとなった。